

2024年度 自己評価公表シート

小城ルーテルこども園

1、本園の教育目標

2025年6月

キリスト教精神を土台とした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている

- 1、生涯の土台作りのために、いろいろな実際体験を保育に取り入れる。
- 2、一人ひとりの人格を大切に、心の行き届いた保育をする。
- 3、豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- 4、神様からいただいた身体を大切にする心を育てる。
- 5、友だちと共に生活することに喜びを持つ心を育てる。
- 6、自分からあそびに取り組んだり、自主的に活動できるように援助する。
- 7、家庭と園の協力を大切に、保護者と保育教諭が協力しあう。

2、2024年度重点的に取り組む目標・計画

- ① キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を大切にするようになるために、引き続き乳幼児の心身の育ちを豊かに守っていくための保育者の関わりを学んでいく。
- ② 子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもの情緒的結びつきを深め、より良い関係を生み出すための保育者の関わりを学び、日頃の保育に取り入れる。(子どもに語りかけることばや大人の行為、ふるまい等)
- ③ 子ども一人ひとりの多様性を理解、尊重しながら、一人ひとりがどのような援助をし必要としているかを把握し、生活上の困り感を改善できるような関わりをし、子どもが自己肯定感を高め、生活をしていくためには、どのような取り組みや環境作りが必要であるかを、特別支援教育の立場から学んだことを実践する。
- ④ キリスト教保育指針【2024年版】を学び共有する。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組み状況及び評価
乳幼児理解	<ul style="list-style-type: none">・キリスト教の精神で一人ひとりの子ども達の成長過程を理解、把握し、個々の違いを尊重し、丁寧な保育を行おうと園全体で取り組んでいた。・保育者によっては、認識の相違のため、園の方針に沿わない保育につながるがあった。その後、園全体で子どもが安心して生活するために、子どもに寄り添う丁寧な言葉かけや表情等、確認しあってきた。・職員全員でキリスト教保育指針【2024年版】を毎月読み、職員会議の際に感想を出し合った。それをまとめたものを全職員で共有し、乳幼児の理解に努めた。
資質向上	<ul style="list-style-type: none">・2024年度も昨年同様、対面式で研修に参加でき、出会いや、交流を持つことができた。また、WEBでの研修も引き続き受け、時間を見つけて多くの職員が同じ研修を受講し、学びを共有することができ有効だった。・研修で学んだことが、実際の保育に、活かされて、子ども達があそぶ環境構成が充実し、子ども達が選んであそぶことができる環境が整えられた。・食育に関して、栄養士が保育の中で栄養指導をしたり、食への関心がもてるよう、子ども達に話をする事ができた。・子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもとの情緒的な結びつきを深めるために、乳幼児の心身の成長の過程や、特徴を学び、大人のかかわりが子どもの健やかなる育ちにどのような影響を及ぼすのかを全職員が同じ研修を受け、学びあい共有することができた。
保育計画 ・ 内容	<ul style="list-style-type: none">・月2回の週案で活動内容や子どもの様子を伝えあうことができ、同じ思いで安心して保育ができた。・子どもたちが実体験を通して様々な経験ができるよう、環境を整え、実践した。(芋の収穫など)・4.5歳児では神様が作ってくださった世界の事を考え、SDGsに関心を持ち、私たちができることを具体的に考え生活することができた。(どんぐり銀行活動)・県のエコクラブの活動に参加し指導を受けた。(ゴーヤ栽培)・子どもたちと、食することの大切さや、命の教育に繋がる経験が持てるよう努力した。(獣医による牛の話、食育の話)
保護者 地域連携 子育て 支援	<ul style="list-style-type: none">・保護者参加の行事も計画的に実施できた。・コドモンを利用し、子どもが園で生活している様子を伝えていった。また、個人懇談を定期的に行い保護者と直接話す機会を大切にした。・保護者向けの研修として、講師(柴田愛子先生)を招き実施することができ、保護者が子育てを楽しく思えるような示唆をいただき、好評だった。今後も保護者向けの講演や研修を計画する。・小学校、中学校との交流は5年生とのふれあいや、職場体験で実施できた。・西九州大学看護学部の実習の受け入れをした。・子育て支援(サークルドレミ)については、予約制にし、月2回の頻度で実施した。毎回、地域の子育て中の保護者の10組程度の参加があり、親同士の交流や、子育てに関する相談等を行うことができた。
職員間 の コミュニ ケーショ ン	<ul style="list-style-type: none">・職員会、リーダー会、学年の話し合い等定期的に計画をし実施できた。パートの職員の参加により学年の職員間の情報共有ができた。話し合いの内容の見える化に心掛けた。・休憩室の整備を行い職員の休憩時間を確保できるよう、各学年で工夫した。しかし、それぞれ休憩時間の確保が難しく、常時休憩が取れるまでには至らなかった。・職員一人ひとりの気持ちや思いを表現し、受け止められる環境が十分ではなかった。園長は職員のコンディションを十分把握するために、懇談を頻繁に行うことが必要だった。

4、総合的な評価結果

- ・2023年度、当園が大切にしていること、子ども達一人ひとりにどのような関わりをして、「神様の愛」を伝えていくのか、「あなたは大切な存在」「宝物」なのだと伝えていくのか、という観点で確認しあった。2024年度は、さらに基本に立ち返り、キリスト教の理念に基づいた保育とはどういう保育であるのかを園全体で確認し合う1年とした。『皆同じように神様に愛されている存在として、一人ひとりを理解し、肯定的に、丁寧に関わっていく』を皆で再確認して歩んだ1年だった。そこで、4月よりテキストとしてキリスト教保育指針【2024年版】を読みあい、毎月の職員会で感想や気づきを共有しあって日頃の保育に生かしていけるよう努力した。乳幼児の発達の理解を深め、質の良い保育を行うため研修を受け振り返りを大切にして、職員全員で共有できるようにして保育をしてきた。その中で、保育者の得意分野を発揮して保育ができる自由な環境作りも課題だった。
- ・業務削減及び保護者とのコミュニケーションを深めるため取り入れている「コドモン」について、利便性がある部分と保育者の業務過多になっている部分がないか見直しが課題。
- ・保育者や保育補助員の募集を続けた結果、2名中途採用することができた。職員が余裕をもって安心して保育に携われるよう、職員の休憩時間の確保や、休日の取得の充実のため、今後も保育者確保の努力を続ける。

5、今後の取り組むべき課題(昨年度に引き続き取り組む)

課題	取り組み方法
キリスト教保育に基づき、丁寧に適切な保育とは何かを確認し合いながら実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格や権利を尊重し、大人と子どもの情緒的結びつきを深め、より良い関係を生み出すための保育者の関りを学び、日頃の保育に取り入れる。(キリスト教保育、担当制、あそび、ことば、環境) ・月刊誌「キリスト教保育」を月初毎に読みあい、毎月大切にしたいことを共有して、保育の中で実践していく。
のびやかに自分の力を発揮してあそぶことができる環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は園庭の改修事業を計画している。日頃の子どもたちのあそびの中で、自然と触れ合い、実体験を通して五感を使い感受性や想像力を養い、自分の体を自由に使って運動機能を発達させることができる環境(園庭)を作り、心身ともに健康な子どもの成長を援助する。
特別支援の推進と子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの多様性や個性に細やかに対応する保育を目指しているが、職員の十分な配置ができていない現状がある。専門的学びを続け、保育の方法を考え、安心して落ち着いて生活できるよう環境を整えながら、保育者の負担が軽減できるよう職員の採用に努力する。 ・子ども、子育て支援の拠点として、地域の子育て中の親子が安心して集うことができる親子の集いの場(サークルドレミ)を提供し、相談等の機能を果たせるように内容を充実させていく。今年度は、新たにサークルで使用する机や遊具などの環境を整える。
働きやすい職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが余裕をもって仕事ができ、意見を言いやすい風通しのいい職場を目指す。 ・適正な人員配置、必要な職員の確保に努め、業務内容の見直し・削減も進める。 ・職員の休憩時間の確保や、休日の取得の充実に努める。

6、学校関係者の評価

- ・小城ルーテルこども園は全国を見回しても豊かな環境に恵まれた「こども園」であると拝察している。時代としては人手不足の中で職員の確保、指導がいささか困難な状況にあり、課題として挙げられると思われる。多様性は重要なテーマでもありますが、「こども園」として組織力を充実させるため、一定のテーマを設定し適宜実行していくことが求められていると感じております。小城の地域性を生かした徳育、食育をはじめとしたテーマを職員の方々が共有いただき、常に未来志向で進んでいただくことを期待している。

7、財務状況

公認会計士監査により、園の運営、財務管理は適正に行われていると認められています。
(公認会計士 坂田 達哉 公認会計士 金子 智弘)

監事 広渡 純子
監事 山本 康徳